

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立福島小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒702-8046

岡山市南区立川町3-37

E-mail fukusimas@city-okayama.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 201名 女子 165名 合計 366名

幼児・児童・生徒の年齢 7~12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、学校教育目標を「福島っ子 みんなちがってみんないい」をモットーに一人ひとりを大切にする教育を目指している。

ESD の目標としては、地域の人や自然社会と係わる中で、自ら課題を見つけ、既習した教科の学習内容や技能を活用して、解決・探究する活動を通じて、自分の生き方を見つめ直し、自分の人生や将来についての生き方を考える児童の育成を目指している。ここ数年は学年ごとのテーマを固定しているが、児童の興味関心に合わせて何に焦点を当てるか、どのような活動をするかを毎年話し合い、具体的な実行を心がけている。

3年生・地域に暮らす高齢者

4年生・障害のある人の暮らし方と生き方

5年生・地域の自然環境と環境保全

6年生・世界の子どもの現実と国際協力

① 福祉に係わる活動

3年生は、地域の高齢者施設（特別養護老人ホームけやき）を訪問したり、学校行事にお招きしたりして交流を深めた。

その中で、高齢になることで発生しやすい病気や身体状況の変化を聞き、予防方法を学んだり、体の動きを補助したりする設備機器の体験をした。スタッフが衛生面のガイドラインに沿って介護していることや、食事や入浴の場面で補助具・自助具を利用していること、安全確保の為にエレベーターが特殊なボタンになっていること等、実物を見ながらの学習は、高齢者と係わりが少ない児童にとっては驚きの連続だった。

その中で多くの児童が感銘を受けたと口にしたのは、入所者の心を豊かにする声かけやプログラムだった。スタッフが、入所者一人ひとりの性格や身体的特徴を踏まえた上で、季節の行事や趣味の活動の支援をしている姿は、説明よりも実際に見る中で感じるどころが多かったようだ。

② 福祉に係わる活動

4年生は、障害をもつ人の暮らしぶりをテーマに学習し、車いす、点字ブロック、盲導犬等が重要な役割を果たしていることを知った。そこで、自分たちにできることを考え、点字ブロックの上に自転車を停めない、車いすや白杖を使っている人が困っていたら介助すること等を実践した。また、自分たちの学んだことを下学年に伝えたいとの思いから車いす体験・アイマスク体験の機会を設けた。更には車いすを購入するために全校児童にアルミ缶集めを呼びかけ、目標である20kgを達成し、車いす1台を購入することもできた。

5年生はペットボトル・古紙・廃油回収、6年生は書き損じはがき回収等、それぞれの学年が目的に応じた方法で自分たちにできることを考え、実践した。

③ 環境に係わる学習

5年生は地球温暖化、水不足、生態系の変化等の世界的な問題が自分達の暮らしと無関係でないことを学び、電気の使用量を減らす、節水する、4Rを推進する等の意識変化と実践が見られた。

明和製紙より講師を招き、紙のリサイクルについて講義を受けた後、古紙が新たな紙に生まれ変わる様子を見てリサイクルを推進する意識が更に高まった。

④ 貧困に係わる教育

6年生は、世界には自分たちと同じくらいの子どもが栄養を十分摂れず、教育を受けることができない現実があるということを知った。なぜこのような事態（経済格差）が発生するのか原因を探ると共に、自分たちができることは何かを考え、全校に向けて発表した。具体的には食べ物を粗末にしない、4Rを推進する等を訴え、社会全体が進めないとなら効果が上がらないということを知った。

③ の写真（紙のリサイクル）



① の写真（高齢者との交流）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユニセフ、日本赤十字社のホームページ
明和製紙のホームページ、資料「紙はごみじゃない」
DOWA バイオディーゼル資料「てんぷら油のリサイクル」
ビデオ「どうする地球のあした」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

横断的・総合的に課題を把握し探究するため、発達段階に応じたテーマを各学年で設定している。

毎年年度末には、全体計画を全職員で見直し、次年度につなげている。

3・4年生では、高齢者や障害者について学び、それらの人々を取り巻く社会問題とその人の生き方を学ぶ。書籍やウェブサイトの閲覧もするが具体的に見たり聞いたりする体験的な学習を重視している。

5・6年生は、世界規模の環境や国際理解を扱うが、身近な問題に引き寄せ持続可能な活動を考えている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学年ごとのテーマが固定されていること、全体計画を職員が共有していることから教員間の理解は良好。

児童間では、リサイクルを進めるためのアルミ缶や書き損じはがきの回収を給食時の校内放送で行う等、積極的な発信が見られる。単に、回収を依頼するのではなく、現在の状況を説明した上で、なぜ・何のためにを訴えることで回収率を上げている。

地域の方や保護者に対しては、毎年2月に開催する「福島子どもフォーラム（今年度20回目）」で1年間の学習活動を発表し、持続可能な社会を作ることができるよう協力を呼びかけている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年1回児童・保護者及び教員アンケートを実施している。

質問項目はユネスコスクールに限定されたものではないが、学校教育への評価を受け止め、課題解決に役立てている。また、ユネスコスクールとして、岡山市主催の研修会への参加、中学校区でのインフォーマルな活動報告等も随時行っている。

児童も保護者も毎年の「福島子どもフォーラム」の発表から、過去の活動に理解・共感を示しているが、「持続」を意識し続けることが難しいことが分かる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

対外的な発信は、「福島子どもフォーラム」で行っている。ここ数年、体育館の壁面に学習のまとめを掲示し、ステージで発表するスタイルをとっており、地域にも定着している。これにより、点字ブロックの調査等の課外活動やリサイクル推進のペットボトル回収等もスムーズに行うことができている。しかし全学年が発表するため、発表や質疑応答の時間に制限があり、ワンウェイの発表になりがちで、ツーウェイになりにくかった。

そこで来年度からは体育館発表ではなく、学年ごとの教室発表にして、ポスターセッションのようにお客様に会場を回ってもらうようにする。

児童はビデオに撮ったものを見たり、少数の学年間で発表し合ったりして、地域の肩とは別の日に学習する機会を設ける予定。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

岡山市主催の実践報告の場で市内の学校との交流を深めたり、不定期に中学校区での情報交換を行ったりして、横のつながりを深めている。

コーディネーターからアドバイスをもらうこともある。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

上記⑥のとおり岡山市主催の実践報告の場で市内の学校との交流を深めたり、不定期に中学校区での情報交換を行ったりして、横のつながりを深めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

一人ひとりの力は微力だが、高い意識を持ち続け、実践することで社会が変わる実感を得ている児童は多い。節電、節水、4R 等に取り組む家庭も多い。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も、地域の人や自然と係わることを前提として、自ら既習した教科の学習内容や技能を活用して、解決・探究する活動を通じて、自分の生き方を見つめ直し、自分の人生や将来についての生き方を考える児童の育成を目指していく。

従来の活動が一定以上の効果を収めていることを踏まえ、各学年のテーマは継続する。

3年生は高齢者の福祉施設の見学と入所者との交流、4年生は障害者の暮らしの理解と体験、5年生は環境破壊とそれを改善するために自分ができること、6年生は貧困、戦争とそれを改善するために自分ができること等を児童の問題意識を汲み取りながら進めていきたい。

加えて、「福島子どもフォーラム」が新しい形になるため、より効果的な発表スタイルを模索する予定。